

心のバリアフリー教育グッドプラクティス 応募資料

学 校 名	野田市立関宿小学校	
ア 全校児童生徒数	108名	(令和4年5月1日現在)
イ 実践対象 (学年・人数など)	① 第4学年1組 16名 ② 全校児童 108名	
ウ 実践内容 (実施時期・概要など) ※画像の挿入可	<p>①</p> <p>4月 福祉とは何か知り、テーマについて話し合う。 5月 映像や資料を通し、パラリンピックの意義や価値を知る。 6月 国語科の教材と関連付け、リーフレットを作成する。 7月 リーフレットの発表会を行い、福祉への理解を深める。 8月 家庭学習で各自福祉について調べる。 9月 車いすや白杖体験をすることでバリアフリーについて知る。 10月 パラスポーツについて調べる。 11月 パラスポーツについて調べ、発表会を行う。</p>  <p>「あすチャレ! スクール」(主催:日本財団パラスポーツサポートセンター)体験プログラム車いすバスケットボールゲーム 実施</p> <p>12月 パラスポーツ体験をする。(ボッチャ、ゴールボール) 1月 「関小パラリンピック」の準備・開催 2月 学習した内容を保護者や地域の方に伝える。 3月 共生社会に向けて私たちができることを考え、まとめる。</p> <p>②</p> <p>1月 4年生が主催する「関小パラリンピック」でパラスポーツを(ボッチャ、ゴールボール)を体験する。</p>	

<p>エ 実践の普及啓発 (地域等との交流や 広報方法など)</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「関小パラリンピック」を開催し、パラスポーツについて調べたことを他学年に伝えたり、パラスポーツを体験してもらったりして、その楽しさを知ってもらう。 ・保護者を招待して学習発表会を行う。
<p>オ 実践成果 (児童生徒の変化など)</p>	<p>①</p> <p>「あすチャレ!スクール」で初めて車いすバスケットボールを体験し、最初は戸惑っている児童もいたが、ゲームを行っているうちに上手に競技用車いすを操作できるようになった。体験後は、「またやりたい。」「いつできるかな。」という声がたくさんあがっていた。この経験から生活の中でも苦手なことにチャレンジしてみようとする気持ちが生まれ、持久走練習や学習中の発表にも積極的に挑戦する姿が見られるようになった。</p> <p>また、以前に比べ、周りを見て困っている友達に声をかけたり、助けたりするような姿が見られるようになった。</p>
<p>カ 次年度の予定 (課題や改善策など)</p>	<p>①</p> <p>4年生では、総合的な学習の時間で、福祉について学習する。その中で障害を持つ方の生活やパラスポーツについて調べ、学習発表会や体験活動などを行う。全校や保護者の方に広めるとともに、近隣の関宿中学校と合同での活動ができないか検討していく。さらに地域の方にも広く広めるための活動を企画したい。</p> <p>②</p> <p>体育の学習で、パラスポーツ取り入れる。 地域で障害のある方を講師に講演やパラスポーツ体験を実施する。</p>
<p>キ 添付資料 (広報資料・Web記事など)</p>	<p>②</p> <p>学校だより (全校児童に12月1日配付) (自治会に11月28日配付依頼) 学校ホームページ (12月2日更新)</p>

※A4サイズ2ページ以内に調整すること。